

臨床研究に関する情報公開（一般向け）

「脳静脈奇形における脳実質異常：3T 磁化率強調画像を用いた検討」へご協力をお願い

—2008年1月1日～2013年11月30日までに脳MRI検査で磁化率強調画像撮影を受けられた方へ—

研究機関名 三重大学医学部附属病院

研究責任者（所属指名）

三重大学医学部附属病院 中央放射線部・准教授 前田正幸

研究分担者（所属氏名）

三重大学医学部附属病院 放射線診断科・教授 佐久間肇

三重大学医学部附属病院 放射線診断科・医員 海野真記

1. 研究の概要

1) 研究の意義

研究成果により将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。

2) 研究の目的

3T MRI 磁化率強調画像はデオキシヘモグロビン化された静脈のコントラストを上昇させることにより、高分解能を維持したままで髄質静脈を画像化することが可能です。近年、磁化率強調画像での血管奇形の高い診断能が報告されてきました。静脈奇形は最も高頻度にみられる脳血管奇形です。静脈奇形の灌流域における大脳白質異常高信号や、海綿状血管腫や出血の合併などの脳実質異常が知られています。大脳白質異常高信号は静脈圧亢進による浮腫やグリオシスなどの二次的な変化を反映していると考えられています。この大脳白質異常高信号は脳腫瘍と鑑別を要することがあり、静脈奇形の診断は重要です。

今回我々は3T 磁化率強調画像を用いて静脈奇形を検出し、その灌流領域における脳実質異常の有無について検討します。さらに、大脳白質異常高信号の有無と年齢、サイズ、場所、海綿状血管腫および出血の合併の有無を検討します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2008年1月1日～2013年11月30日までに脳MRI検査で磁化率強調画像撮影を受けられた方へ

2) 研究期間

2014年3月7日～2016年3月31日

3) 研究方法

2008年1月1日～2013年11月30日までに脳MRI検査で磁化率強調画像撮影を受けられた方のMRIデータをもとに、研究者が後方視的（過去にさかのぼって調査する方法）に画像の解析を行います。

4) 使用する試料の項目

この研究において試料は使用いたしません。

5) 使用する情報の項目

①年齢、②性別、③身長、④体重、⑤原疾患名、⑥脳MRI検査のデータ

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、三重大学医学部附属病院放射線診断科研究室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

7) 情報の保護

この研究に使用する情報からは、氏名、ID 等などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報が漏えいしないようプライバシーの保護には最新の注意を払います。

8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。この研究はあなたのデータを個人情報とわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、2015年3月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

所属 氏名：三重大学医学部附属病院 中央放射線部・准教授 前田正幸

電話：059-231-5029（平日：9時30分～17時00分）

ファックス：059-232-8066